

「放射性セシウムの1回摂取と長期摂取による体内残存量の経時推移」

国立保健医療科学院生活環境研究部が管理しているHPより

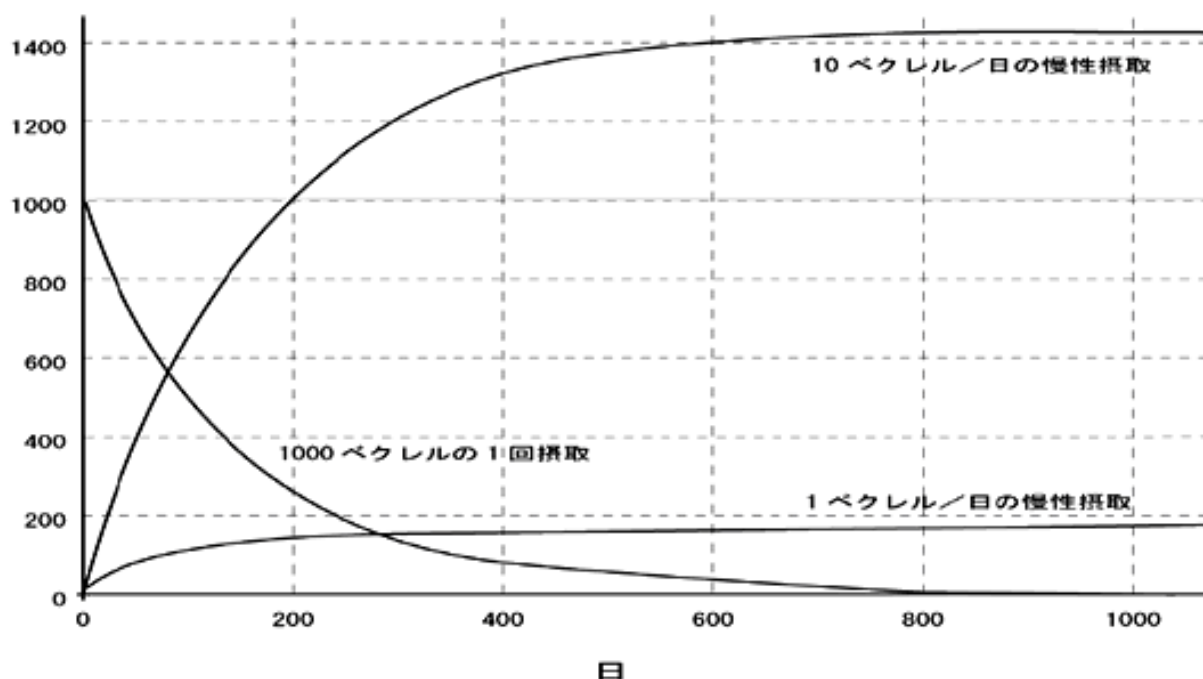


図 2.2. 1000 ベクレルのセシウム 137 を一度に摂取した場合、および 1 ベクレル および 10 ベクレルのセシウム 137 をそれぞれ 1000 日間毎日摂取した場合の全身放射能 (ベクレル) の推移 (1000 日間)

出典

ICRP PUBLICATION 111. Application of the Commission's Recommendations to the Protection of People Living in Long-term Contaminated Areas after a Nuclear Accident or a Radiation Emergency

10Bq/d の Cs-134 の経口摂取による線量は、実効線量係数 1.9×10^{-5} [mSv/Bq] を用いると (原子力安全委員会. 環境放射線モニタリング指針)、 1.9×10^{-4} [mSv] であり、年間の摂取を考慮すると、0.07 [mSv] となります。

4月からの新放射性セシウム規制値と事故前の放射性セシウム 137 の平常値

4月からの新放射性セシウム規制値		事故前の放射性セシウム 137 の平常値 (文科省「環境放射能調査研究」)	
飲料水	10 ベクレル/ kg	上水	0.045 ミリベクレル/リットル
乳児用食品・牛乳	50 ベクレル/ kg	精米	0.0076 ベクレル/ kg
一般食品	100 ベクレル/ kg	牛乳	0.011 ベクレル/リットル
		豚肉	0.13 ベクレル/ kg
		鶏肉	0.026 ベクレル/ kg

出典「食品と暮らしの安全」より